



(公社)佐倉市シルバー人材センター ホームページ

ハローシニア佐倉

(公社)佐倉市シルバー人材センター

佐倉を知る



報恩寺

報恩寺(だるま寺)

東邦佐倉病院に近い下志津に、だるま寺として地域の皆さんに親しまれている報恩寺があります。本堂でだるまさんに囲まれながら、若い第十六代ご住職太田宗慶(そうけい)様にお話しを伺いました。坐禅会にも参加させていただきました。



ご住職とご本尊

創建から約670年

臨済宗妙心寺派である報恩寺の創建は室町時代の初め、1350年頃に遡ります。約670年の歴史を持つ由緒あるお寺です。白井氏の分家である志津氏の志津次郎胤氏(たねうじ)が夢窓国師を開山として、建立したと伝えられています。昭和20年の空襲で建物は焼失しましたが、ご本尊の釋迦牟尼佛(しゃかむにぶつ)は焼失を逃れ、現在もご本尊として祀られています。現在の本堂は昭和59年、先々代の第14代ご住職の時代に檀家の皆様のお力により再建されたものです。



本堂脇の竹林 だるまの石像がお出迎え

よく手入れされた静かな庭では、聖観世音菩薩立像と共に大きなだるまさんの石像が来訪者を出迎えてくれます。本堂脇の緑鮮やかな竹林は爽やかに風にそよぎ、ひとときの非日常を与えてくれます。

5,500体を超えるだるまさん

本堂の三方の欄間の表裏にぎっしりと並んだだるまさんは壮観です。本堂でだるまさんに囲まれて、ご住職からその始まりについてお話しを伺いました。「先代の住職が報恩寺を再建した昭和60年



奉納されただるまさん



5,500体以上

過ぎ、地域の皆さんとの交流の為、正月三が日に初詣に来られた方々へ、だるまさんを一家に一体差し上げるころから始まりました。左目を入れてお願いごとをして、所願成就した暁には右目を入れて報恩寺に奉納いただいております。一番古いのは昭和63年に奉納いただいただるまさんです。奉納いただいただるまさんは、一体も欠かさず欄間などに飾らせていただいております。」

お話しを伺ったあとで、ご住職と一緒にだるまさんの最新の数を数えました。5,500体を超えていました。現在は毎年150体以上のだるまさんが奉納されているとのことでした。

坐禅の会

報恩寺では毎月第一土曜日の午後6時から坐禅会を開いています。「坐禅は臨済宗の教えの中でも最も大切なところであり、地域の皆さんとの交流の場として、平成4年から、最初は子供さん中心に坐禅会を始めました。」とご住職。「今は20年以上続けておられる方、県外からご参加くださる方もいらっしゃいます。」

取材も兼ねて坐禅会に参加させていただきました。初めと終わりにお経を唱和しての約1時間ほどの坐禅体験でしたが、次第に心が落ち着いてくる貴重な体験でした。「一日一度静かに坐って身体と呼吸と心を調えましょう。厳しくはありません。お気軽にご参加いただき、先ずは一緒に坐ってみましょう。」とご住職。



坐禅会

お忙しい中取材にご協力いただき、ありがとうございました。報恩寺へのお問い合わせは043(461)1408 報恩寺

取材担当/広報委員 小野寺 弘孝

人と趣味 植木職と盆栽



もう一つご覧ください！

20年の会員歴の中ではどのような仕事を-

工場での長年のモノ造りで積み上げた経験と様々な資格を活かせるだろうと聞いて、シルバー人材センターに入会しました。早速に派遣された事業所で生産改善に取り組み、経験が活かされて喜ばれました。その一方で、盆栽を趣味にしていた縁で植木職第12期生に応募し、所定の講習全課程を修了。植木職歴は今年で19年になります。季節になるとハチの巣駆除もやっています。此方は18年です。

盆栽はいつごろから-

日本国内が東京オリンピックに沸いた年から始めて今年で58年です。ピーク時には160点ほどを育て



↑ 盆栽鉢

↑ 鉢植エイワヒバ

明るい語り口と豊富な話題。盆栽から広がる面白い話が次々に湧き出でて尽きませんでした。ご自宅で見物を見せてもらった時には、盆栽談義に花が咲くことでしょう。小柴さん、ありがとうございました。

取材担当/ 徳野 廣一グループリーダー

SSJC(会員歴20年の大先輩で、植木職とハチの巣駆除で活躍されている小柴新一さん(佐倉・和地区12班)が盆栽を趣味にされていると聞いて、ご本人を取材いたしました。

お譲りしてもらえ盆栽鉢と連絡先は次の通りです

- 盆栽鉢 月盆栽に使用していた角鉢 大(40cm×30cm)~小 30鉢
- 棕櫚竹に使用していた丸鉢 大(直径33cm)~小(直径22cm) 5鉢
- 寄せ植え用皿鉢 大(44cm)~小(22cm) 6枚
- 春蘭鉢(未使用品) 3鉢
- 鉢植エイワヒバ 樹齢70年~同20年もの各種 大~小 13点

連絡先 090-7237-6679 (小柴さんの携帯電話)

会員互助会 「長寿(米寿・喜寿)お祝い会」についてのお知らせ

会員互助会では、例年2月に「長寿お祝い会」として「米寿・喜寿」を迎えられた会員の皆様にお集まり頂いておりましたが、新型コロナウイルス感染が継続するなかで、会場としているミレニアムセンターの使用条件も厳しい状況にあり、会員の感染予防を最優先とする考えから、今年度の式典は中止することに致しましたので、ご了承願います。つきましては、対象となられます皆様方には、個別にご案内させていただきますので、宜しくお願致します。

佐倉 産業大博覧会



佐倉の 商業・工業・農業・福祉が大集合!!

この産業博覧会は昨年からの草ぶえの丘で農業関連と工業・技術関連の展示会が合体して開催。今年は出展者も増加、わがシルバー人材センターでも人気のある「襖・障子・網戸張り替え班」「福祉有償運送・レインボーシャトル」と「人材センターのPR」で広報委員会が担当で出店しました。

11月12日(土)・13日(日)の開催で13日のこの日は夕方から雨が降るとの予想で午前中から風が吹いてブースの前に置かれたパンフレット類が飛んでしまう様な状況でした。それでも午前中は暖かく日差しもあり、子供連れの家族で大変な賑わいとなっていました。

「襖・障子・網戸張り替え実演」

体育館の5番ブースにおいて張り替えの実演が行われ、11月12日(土)には、ケーブルネット296の取材と博覧会全体の生中継がありました。「張り替え実演」のとなりにPR用デスクも置かれ、当シルバー人材センターに関するパンフレット類の配布と説明が行われ、ハンカチ等がプレゼントされました。

また、デスクの後ろの大型モニターから、人材センターのPR動画と「張り替え作業の動画」が上映されました。その隣のDICのブースは、子供達に大変な人気で、子供と親たちの列が張替班の前まで伸びていました。



「張り替え実演」

は、12日(土)が有賀班長以下2名、13日は3名で行われました。その障子張り替え作業を解説すると、古い障子紙を取り除いた後、サンに残っているノリの固まりを取り除く。刷毛でサンに丁寧にノリをつける。サンの脇に



流れたノりを軽く拭き取る。巻いてある障子紙を、サンの上に広げ伸ばす(きれいに)。紙を軽くこすり、サンに付着しているノリに確実に載せていく(しわが出ないように)。障子全体よりも少し長め(2メートル位)の定規を使いカッターで不要な部分を切り落とす。



横の部分は約1メートル位の定規を使い不要の部分を切り落とす。これでノリが乾燥すれば完成。全体として1人で15分から20分で出来るとのこと。

この作業を見ていた40代近くの女性に話を聞くと「今までやったことがなかったのですが、意外と簡単なんです。今度やってみます。もし上手くできなかつたらシルバーさんにお問い合わせいたします」。

若い父親、母親は、障子の張り替え作業を経験した事がないのだと実感しました。

今回の出店では、4~5件の障子の張り替えの予約が入っているとのこと。有賀班長に今回の出店の意義を尋ねると「全

体に若い家族連れが多く、ほとんどの人がこうした張り替えの経験が無く、見せて貰って良かったという声を沢山聞きました」。また同班長から「網戸の色にもいくつかあり、それによって機能に違いがあることや最近の網戸はメッシュの糸が細い為に耐久性が悪いことなども伝えています」。



「いろいろなお仕事 PR」

体育館近くの45番ブースは、テント半分の広さでした。内部には、職業紹介の写真パネルとイメージアップポスターが展示され、シルバー人材センターのチラシ類の説明と配布、子供達へケン玉チャレンジと木コマやハンカチなどのプレゼントが行われました。このブースは広報委員が交代で担当し、訪問介護の女性陣が長風船でおもちゃを作りプレゼントしていました。13日の終了間際に風が強くなり、テント内はパンフレット類や写真パネルなどが風に吹き飛ばされ、やむを得ず収納しました。



ブースへの来場者は4対1で女性の方が多いように思われました。熱心に話を聞いていた女性が居たので内容を聞くと「佐倉市に越してきてまだ4か月でしかも今はまだ会社に務めているので正式に退職したらシルバーさんに入れて貰いたいと思います」とのこと、会員拡大やお仕事紹介が、大いにPR出来ました。

取材担当/広報委員 小沼 英夫

レインボーシャトル、佐倉産業大博覧会2022「はたらくのりもの」車椅子車輛出展

会場の正面入口から見える絶好の場所に、レインボーシャトル車椅子車輛が出展する事となりました。天候に恵まれ、車椅子車輛のデモストレーションで終日賑わっていました。



◎試乗体験をされた方のお話を聞いてみました。

◎Aさん(佐倉市鎌木在住)70歳代の女性の話し。レインボーシャトルの存在を全く知らない。丁度、夫が介護認定を受けているので、佐倉地域包括センターのケアマネージャーと相談して申込みたい。

◎Bさん(佐倉市王子台在住)60歳代の女性の話し。現在一人暮らしで病院通いの日常。先行き不安。佐倉市にレインボーシャトルがあるのを知って少し安心した。

◎Cさんと小学生の親子(佐倉市ユーカリが丘在住)40代の男性。子供が車椅子車輛に凄く興味があり、車椅子車輛に乗せた。自宅でも車椅子を祖父が使用中との事。

◎Dさん(千葉市若葉区在住)70歳代の女性二人。千葉市にレインボーシャトルの様な介護タクシーがなく介護認定を受けた人でもタクシーで病院通いしている。千葉市でも欲しいと。

11月12、13両日で延べ35件の試乗体験を実施しました。今回、特に目立ったお話しとして、佐倉市にレインボーシャトルがある事。また、料金がタクシーの半分程度である事は、特に興味を示していた。佐倉市内で認知度が薄いと感じた。まだまだレインボーシャトルの広報活動の必要性を感じた佐倉産業大博覧会でした。

今回の佐倉産業大博覧会には、レインボーシャトルのスタッフ4名が交代で実施。パンフの配布147枚と広報活動を実施した。昨年に比べて、今年の博覧会はコロナ禍ではあったが、活気が増したように思いました。

取材担当/広報委員 鶴崎 金次